

エリートには貧困が見えない

池上彰×佐藤優

離婚、病気、リストラ…突然転落の心得

奨学金、大学中退…教育格差の現実

浅田真央の去就

心動かす手書き

昭和63年6月10日第3種郵便物認可  
2015年5月25日発行  
毎週月曜日発行(5月18日発売)  
通巻1508号

'15.5.25

No.22

特別定価 410円

増大号  
アエラ

# AERA

創刊27周年!

プレゼント  
キャンペーン  
実施中!

【大特集】

## 格差と貧困

あなたは見えていますか

歌手  
今井美樹

21世紀をつくる  
ニッポン人名鑑

— vol.46 —

## 【飯塚裕久】

いいづか ひろひさ

NPO法人もんじゅ代表・介護福祉士

1975年6月11日生まれ

“介護職の可能性を照らす知恵者”

常に明るくユーモアたっぷり。いかにもクリエイター風のたたずまいにして認知症介護の最前線を走る、そのギャップが小気味よい。祖母が戦後の衛生状況の悪いなか、「人間が人間らしく最期を迎えられるように」と立ち上げた事業を3代目として受け継ぎ、小規模多機能型居宅介護事業所「ユアハウス弥生」所長を務める。彼にとって介護職の魅力は「命の尊さを実感できること」。介護を通し、戦争体験をはじめお年寄りたちのリアルで壮絶な生きざまに触れると自分の悩みがちっぽけに感じられ、さらに「自分は下の世代に何を伝えていけるだろうか」ということをおのずと考えるようになるという。「人間のあるべき営みって、先代が築いたよいものをいまの社会にフィックスさせて、さらに

リリースして次の代につなげることだと思うんです。その点、介護職は実は知識や経験を世代間で継承する装置でもあって、僕は日本の宝だと確信しています」

団塊世代が75歳以上となることに伴う「2025年問題」を前に、待遇の悪さや高い離職率など業界の課題は山積している。その解決策の一端として、2010年にNPO法人もんじゅを発足。「三人寄れば文殊の知恵」の発想で、介護の現場で働く人たちが課題を話し合い解決を目指す「もんじゅミーティング」を全国各地で実施している。「カフェなど職場から離れた気楽なスペースで、利害関係のない人同士が集まり、仕事の悩みや心のモヤモヤを言語化してもらうことを目的としています。僕はもともと大学で医療を学んで

いたのですが、医療に比べると介護は学問としての成熟がまだまだ。介護職の価値が社会でもっと認められるためには、言語を作っていくなくてはならない。問題点を言葉で定義しなくては、解決への道も開かれませんか」

介護はパーソナルなものだけに、生じる問題も千差万別。もんじゅではできるだけ多くのケーススタディを集めて共有し、インターネット上で閲覧可能にすることで“問題解決のプロセスの辞書”作りにも励んでいる。

「この先10年で介護職員を100万人増やさなくてはならないといわれています。介護職に就くと強要するつもりはありませんが(笑)、この仕事の価値についてみんながちょっとでも考えるきっかけを増やしていきたいですね」

「21世紀をつくるニッポン人名鑑」は4月から毎週月曜日(休日の場合は前週金曜日)、朝日新聞デジタルのウェブマガジン「&W」にも掲載。2013年にスタートした連載の一部を順次アップしていきます。 [http://www.asahi.com/and\\_w/](http://www.asahi.com/and_w/)

わたしらしくをあたらしく

LUMINE

Text: Kaori Shimura Photograph: Ittetsu Matsuoka Design: Satoko Miyakoshi Edit: Sayuri Kobayashi Direction: Teruhiro Yamamoto (AERA STYLE MAGAZINE) Planning: AERA AD section